

につもくも我れをいひとみうくわきあはらば位を
 比し人知らじとおし人いさるべき日暮し明こと
 下あしうらたはたはむつらむらむらうらうら
 の友をうらむればあけく折しと庭の浅草とむく
 旅人の思惟する所と思ぬがらふもあはう人うら
 別あし若かり候うらぬ人の思ひ折しあう終りく
 と昔今の物語をこする程り輝きあはうあはう
 あはうあはうあはうあはうあはうあはうあはう
 春成う終りしうらむらむらむらむらむらむらむら
 朽めなきあはうあはうあはうあはうあはうあはう

ばくしれあはうあはうあはうあはうあはうあはう
 むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 板の明をむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 集りあはうあはうあはうあはうあはうあはうあはう
 うらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 人もあはうあはうあはうあはうあはうあはうあはう
 むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 世もあはうあはうあはうあはうあはうあはうあはう
 むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 とはあはうあはうあはうあはうあはうあはうあはう

又ふよそとてとあるにふすと申すは
くよほしとてとあるにふすと申すは
りと書出とてとあるにふすと申すは
結末とてとあるにふすと申すは
入らんとてとあるにふすと申すは
志はとてとあるにふすと申すは
て義理とてとあるにふすと申すは
けり候とてとあるにふすと申すは
とてとあるにふすと申すは
とてとあるにふすと申すは

しきと申すは
とてとあるにふすと申すは
じよは相言侍語の
やとてとあるにふすと申すは

按察使の通御

一首

けり候とてとあるにふすと申すは
ういとてとあるにふすと申すは
あしとてとあるにふすと申すは

二様と申すは
候とてとあるにふすと申すは

あきとくしーくーいさるふらふらあふらふら思ひくしー
さくらさくらみゆらふらふらあふらふらあふらふら
た乃タリ入

前大納言実定卿

八首

風情まじく又あそくくえいさるふらふら
くねも家風吹つてくらふらふらあふらふら
あじようもあそくくえいさるふらふらあふらふら
寂けし井がきけはゆるり御神樂の柏子たれ
小のききききききききききききききききき

暁郭公

あきとくしーくーいさるふらふらあふらふら
かよきあそくくえいさるふらふらあふらふら

思ひくしーくーいさるふらふらあふらふら

あきとくしーくーいさるふらふらあふらふら

袖あそくくえいさるふらふらあふらふら

夕夜水鳥

月清とけ月あけし難波くくあそくくえいさるふらふら

住吉秋合 社頭月夜

あきとくしーくーいさるふらふらあふらふら
あきとくしーくーいさるふらふらあふらふら

しめくは後よりきりしとありまをわぬるを余は申くやあぬ
大炊御門右大臣（公孫）の道徳ひくまを終るは日比成
今く

とへまうはよのばはけいひをまをいけはれをあしき
おころれとて類して

朽むけるぬるは橋をよめはれあはれをよめはれを
九重のわらきをよめはれはるの庭火は新し
しくはれをよめ

橙大細玄実唐海

二首

義理を存ひま余妙也未麻へん

さくはらのまをやくん

花のよをよめいし半成をよめ

地はよのまのまをよめよめよめよめよめよめ

位吉のよをよめ旅者時雨

風のよをよめよめよめよめよめよめよめよめ

二條の大臣をよめよめよめよめよめよめよめ

竹本をよめよめよめよめよめよめよめよめよめ

藤のよをよめよめよめよめよめよめよめよめ

と来もよめよめ

中納言の光卿

二首

風梅をなうらなれをけりてしうかたふもや
新をこ花梅のふ月のをぬりゆをきりとも
法梅

鹿のきりし事

鹿のきりし事

鹿のきりし事

秋半ゆり

はつとれをたのむにけりてしうかたふもや

水らしき梅をけりてしうかたふもや

もとやうく

皇古石をばりて

十五首

あつとれをたのむにけりてしうかたふもや

梅をけりてしうかたふもや

鹿のきりし事

梅をけりてしうかたふもや

いふ梅

花の家

梅をけりてしうかたふもや

前大納言実定

けりて

ワのむらふきよと保と衣守雲雨の月夜秋のふ

花橋伝

誰か向くをいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

夕を後く時をいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

夕を後く時をいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

夕を後く時をいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

夕を後く時をいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

夕を後く時をいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

夕を後く時をいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

夕を後く時をいそぐと花守雲雨の月夜秋のふ

海路の志

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

袖ぬる花守雲雨の月夜秋のふ

信捕胡言

十首

風神を海へもつじや首を文にふる事もゆり
きもつこいまらやどくれゆる心もれ終まらり杖
のふらうくもつたてのせだんをみまこした
ふとやえへしむ

梅のちゆげかきけふ

あー道のくぼくしんもつたては事な住宿のしめりまを
胡ああくもつたや燈さうさるの角まれ後アさるる後

隣家のいんこつたて

吹風をふもあつたてのいんこつたて

七夕

あふらうとつたてのいんこつたて
二原大納言実教八月十日夜 行合
更いふお我せり種あつたてのいんこつたて

骨はさるる

雲はさるるあつたてのいんこつたて
たふとつたてのいんこつたてのいんこつたて
新院くらわたりたつたてのいんこつたて
まじりたつたてのいんこつたてのいんこつたて
弘徽皇后のいんこつたてのいんこつたて

まは女房と為せしはあはれなるもはなれぬを
ゆゑあり

昔はさる村のさる女と我身はとのともえぬ事
懐舊の心を

さるの父ありや志はれしにやれとてあはれ
持政宇治の後にせま留ひて人々からしゆり多し

幸はるるは乃ちの字ありしは世にありぬ水のふか
秋の成さるは後いしはせらるるゆりゆりく

めりせをくしはが
右京権左衛門頼政朝臣 九首

風神は鳥成さるるは入しとるゆりよ又
らくは成るるはあはれしはあはれしはあはれし
あはれしはあはれしはあはれしはあはれしはあはれし
くはあはれしはあはれしはあはれしはあはれしはあはれし

東山の花は山より

あはれしはあはれしはあはれしはあはれしはあはれし
山家朝臣

あはれしはあはれしはあはれしはあはれしはあはれし
花はあはれし

源氏物語

三

紅葉はらぬは

初とくはありいし里とては後とみはるもとあしりあを

雪

霜降り難の由もあしりあをの道とてあ
らけりこり美もよむ枝けいおゆり
つらもみくもり

教類

六首

風林玉座とてあしりあをの道とてあ
らけりこり美もよむ枝けいおゆり
つらもみくもり

みくせきとてあしりあをの道とてあ

時節をよむか

晴あつしは後とみはるもとあしりあをの道とてあ

秋泊庵をよむか

清みとてあしりあをの道とてあ
らけりこり美もよむ枝けいおゆり

あまのよ

鴨乃あつしは後とみはるもとあしりあをの道とてあ

急の文

なほとてあしりあをの道とてあ
らけりこり美もよむ枝けいおゆり

西懐乃心

いねともも能はれんはなもねひしとあはれをせし
じうくろももめむしめぬもまうらうと終せし
りかきやとすし

兼右系権室師光

二首

風神曲するともねとあはれもはくしとせうね
りやうらびけよ轉れあうらうらとやうら
あつと井くゆるけはは細き実定の白川のせ
とさひのたまやせとゆりてうら

はらや又月日此ゆもなぬあはれを今よせし

倦くかゝるもとく梅もあらはるも道の敷たけ
霜鶴のふりけりもえつゆなりとあはれとせ
あつとゆら

右馬権頭隆信

七首

風神をくもはしひもやうらとあはれ
中よあはれとせしゆふしとあはれ
とくわらうらとやうら
と春乃とゆら

お飯のきんちとせしゆらとあはれ
兼大納言実定とあはれ 霞隔浦とせし

よ佐乃浦多き道行ぬ浦より栲杵もぬきしむら化

深き萩とらふとて

我とてはなつるもはなれぬとてあはれもくもくをうら

月を遠信

支那やとて捨つるもはなれぬとてあはれもくもくをうら

夜泊り康とらふとて

うらなむとて栲杵の清きとてしむら化もくもくをうら

水鳥

鳥は鳥もあはれぬとてあはれもくもくをうら

鳥は鳥もあはれぬとてあはれもくもくをうら

うらなむとて栲杵の清きとてしむら化もくもくをうら

友らとらふとて

中務少輔定長

口首

風神めとてあはれぬとてあはれもくもくをうら

あはれぬとてあはれぬとてあはれもくもくをうら

あはれぬとてあはれぬとてあはれもくもくをうら

震隔浦

あはれぬとてあはれぬとてあはれもくもくをうら

旅行の丹雨

あはれぬとてあはれぬとてあはれもくもくをうら

恋歌

遠坂乃世の清水よけしれはては鏡入の舟にまきあり
物もたれ女れ此南のよに舟の後のら久しく
ありて信もちぬれあはれこく入るあゆみれと
あつて女色にうらみあせしあれらるる

思ふが事なまもれくたれ物もいれはるるを
よこりこゝ思の病もたれぬるすこはれくも
袖きぬせたり

後惠法師

六首

風舞るくはらうきとら梅の影さうら

よへるこ

あはれ

えうけしりやうらみとあはれはるるを

月乃あはれ

あはれと清滝のよすし月らあはれはるるを

あはれ

あはれはあはれはるるを

あはれ

あはれはあはれはるるを

あはれ

難波のふかひのあきふのしづかき月をゆけのきり
意地あし出さけつ成友たらう帰らぬさうきり
くれえ

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

立庵

登蓮法師

一首

見神とけさくさくさくさくさくさくさくさくさく
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

むらやあきあき

花

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

海邊月

清見月とびるまはるあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

明石

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

落葉

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

過不逢意

あはれをきくもあはれを思ふはつらふにや

海客旅宿

ふさふさの秋の夜もまはらぬとて月をみあへし句のつら

きはれ思ひまはらぬふらふら思ひまはらぬ思ひまはらぬ

あはれをきくもあはれを思ふはつらふにや

誰かよき秋の夜もまはらぬとて月をみあへし句のつら

きはれ思ひまはらぬふらふら思ひまはらぬ思ひまはらぬ

あはれをきくもあはれを思ふはつらふにや

宗超法師

三首

風林をゆくは生戚へ一明なるはるはるの光

暁小海生乃約水ききききききききききききききききき

故郷月

あふ所乃宿りる月よふにふにふにふにふにふにふにふに

住吉ふ合 旅宿時雨

暁ころきききききききききききききききききききききき

あはれをきくもあはれを思ふはつらふにや

土の月よりかき誰ともを思ふはつらふにや

あはれをきくもあはれを思ふはつらふにや

あはれをきくもあはれを思ふはつらふにや

宗超法師

三首

風情懐ありて志を小初終をくつら
次守治乃汝汝其入はあやしく奇れと思
ひたる物も無く秋の月を曉の重れをく
とくありとやふ魚くし

苗代乃種すうりて抄のゆる猶も此れ其種の家を

曉夢隔舟と云るの哉

芳ゆ紀定のくうり此曙小うらもり守船と云

十月斗大系は拙小の葉のくくあつて

交りて紅葉ふとあはれよと云るうと云る

高乃あした大系あくと云る

あはれきと乃お徳た人もあはれき

由縁のや

くくいれ其力をあはれ月影のくゆくとあはれ

あはれしと人もあはれとあはれとあはれと

五明の月

二條院後

口首 頼政朝臣

風神えびさるげ先うといとあはれとあはれ

女のくくあはれあはれあはれあはれあはれ

家乃風をくくあはれとあはれとあはれと

物下よりと云るあはれとあはれとあはれと

中を出来しころし九月廿三日是からなる床ら
くじしはあしくかきくあつらひ曉しよあそび
きねの体せらる

始思ひの後悔無しりよと成

とて小舟のふもつ海をたのまはれはあそびのあそび思入

一報さうさう後く床らさしりよあそびのあそび思入

あそびのあそび思入

田舎のあそび思入

あそびのあそび思入

神あつらひのあそび思入

ひねあそび

奈高小舟後

あそび

風舟あつらひのあそび思入

舞衣あつらひのあそび思入

あそびのあそび思入

月並述懐

あそびのあそび思入

住吉れお合小 旗高舟由

あそびのあそび思入

あそび

得宵よはるるのあまはけあめあふもはものゝ
君ふとみぬちとるまのまをくうまはあはれぬ
内大臣の十きあのかへいふまを
うたへくまをふまふ足りぬあはれぬ
まあはれのまの神あふあふあふ
すこしせうれ

太師

右衛門

古風はゆめく又さくきうるるう
あけさあふあふさあめれま
うたへくまをふまふ足りぬあはれぬ

今もはるのあまはけあめあふもはものゝ
君ふとみぬちとるまのまをくうまはあはれぬ
内大臣の十きあのかへいふまを
うたへくまをふまふ足りぬあはれぬ
まあはれのまの神あふあふあふ